

# 病害虫発生予察指導情報

( トマト : 葉かび病 No.1 )

令和元年 7 月 3 日  
鳥取県病害虫防除所

## 1 情報の内容

6 月下旬に県中部の一部のほ場で、葉かび病抵抗性品種のミニトマトにトマト葉かび病\*の発生が確認されました。今後の気象条件によっては、発生の拡大が懸念されますので、梅雨期の防除を徹底しましょう。

\*本県では、平成 29 年にも葉かび抵抗性遺伝子 *Cf-9* を持つ品種に発病する葉かび病 ( レース 2.9 ) の発生を確認している ( 平成 29 年 4 月 24 日付け病害虫発生予察特殊報第 1 号 )。

## 2 防除上注意すべき事項

- ( 1 ) 県内で栽培されている本病抵抗性品種の多くは、本レースに罹病するため、抵抗性品種を栽培しているほ場でも本病の発生に注意する。
- ( 2 ) 本病と症状が酷似している病害にすすかび病 ( 写真 2 ) があるが、肉眼での判別は困難であるため、顕微鏡による病原菌の確認が望ましい。県内では、同一ほ場内で両病害が混発している事例も見られている。
- ( 3 ) 本病は、多湿条件下で発生しやすいので、過度の密植を避け、十分に換気を行うなど高湿度条件にならないように管理する。
- ( 4 ) 肥料切れや着果負担による草勢低下は発病を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- ( 5 ) 葉裏の病斑上に胞子が形成されると、急速にまん延し、防除が困難になるため、初期防除に努め、薬剤が葉の裏面にも十分かかるように丁寧に行う。防除薬剤は表 1 ~ 4 を参考にする。また、薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤のローテーションを行う。

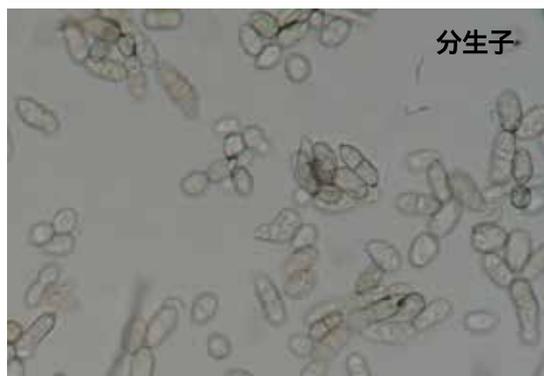


写真 1 葉かび病

写真 2 すすかび病

表1 トマトにおける主な防除薬剤（令和元年7月2日現在の農薬登録内容）

RAC コード*	薬剤名	希釈 倍数等	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分
F:7	アフエツフロアブル	2000倍	収穫前日	3回以内	ペンチオピラド
F:11	アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	4回以内	アゾキシストロビン
F:M05 F:11	アミスターオブティフロアブル	1000倍	収穫前日	4回以内	TPN アゾキシストロビン
F:24 F:M01	カスガマイシン・銅水和剤 （カスミンボルドー又は 銅シン水和剤）	1000倍	収穫前日	5回以内	カスガマイシン 塩基性塩化銅
F:7	カンタスドライフロアブル	1000～1500倍	収穫前日	3回以内	ボスカリド
F:10 F:1	ゲッター水和剤	1000～1500倍	収穫前日	5回以内	ジエトフェンカルブ チオファネートメチル
F:M01	サンヨール	500倍	収穫前日	4回以内	DBEDC
F:M03	ジマンダイセンフロアブル	800倍	収穫前日	2回以内	マンゼブ
F:M05	ダコニール1000	1000倍	収穫前日	4回以内	TPN
F:M05	ダコニールジェット	くん煙室容積100立方m(床面積50㎡,高さ2m)当り20g	収穫前日	4回以内	TPN
F:3	トリフミンジェット	くん煙室容積400立方m(高さ2m,床面積200㎡)当り50g	収穫前日	5回以内	トリフルミゾール
F:7	ネクスターフロアブル	1000倍	収穫前日	3回以内	イソピラザム
F:7 F:9	ピカットフロアブル	1000倍	収穫前日	3回以内	ペンチオピラド メバニピリム
F:11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000倍	収穫前日	3回以内	ピリベンカルブ
F:M07 F:11	ファンベル顆粒水和剤	1000倍	収穫前日	3回以内	イミノクタジンアルベシ ル酸塩 ピリベンカルブ
F:M03	ペンコゼブフロアブル	1000倍	収穫前日	2回以内	マンゼブ
F:M07	ベルコートフロアブル	2000～4000倍	収穫前日	3回以内	イミノクタジンアルベシ ル酸塩

\*農薬の作用機構分類、同じ番号は同一系統であることを示す。

表2 トマトにおける有効成分ごとの総使用回数（令和元年7月2日現在の農薬登録内容）

有効成分名	総使用回数
アゾキシストロビン	4回以内
イミノクタジンアルベシル酸塩	3回以内
イソピラザム	3回以内
カスガマイシン	5回以内
ジエトフェンカルブ	6回以内
チオファネートメチル	6回以内(種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)
塩基性塩化銅	-
トリフルミゾール	5回以内
ピリベンカルブ	3回以内
ペンチオピラド	3回以内
ボスカリド	3回以内
マンゼブ	2回以内
メバニピリム	4回以内
DBEDC	4回以内
TPN	6回以内(土壌灌注は2回以内、散布及びくん煙及びエアゾル剤の噴射は合計4回以内)

表3 ミニトマトにおける主な防除薬剤（令和元年7月2日現在の農薬登録内容）

RAC コード*	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分
F:7	アフエットフロアブル	2000 倍	収穫前日	3 回以内	ペンチオピラド
F:M05 F:11	アミスターオブティフロア ブル	1000 倍	7 日前	2 回以内	TPN アゾキシストロピン
F:NC	カリグリーン	800 倍	収穫前日	-	炭酸水素カリウム
F:7	カンタスドライフロアブル	1000 ~ 1500 倍	収穫前日	3 回以内	ボスカリド
F:10 F:1	ゲッター水和剤	1500 倍	収穫前日	3 回以内	ジエトフェンカルブ チオファネートメチル
F: M05	ダコニール 1000	1000 倍	収穫前日	2 回以内	TPN
F:3	トリフミンジェット	くん煙室容積 400 立 方 m(高さ 2m、床面積 200 m <sup>2</sup> )当り 50g	収穫前日	5 回以内	トリフルミゾール
F:3	トリフミン水和剤	3000 ~ 5000 倍	収穫前日	5 回以内	トリフルミゾール
F:7 F:9	ピカットフロアブル	1000 倍	収穫前日	3 回以内	ペンチオピラド メパニピリム
F:11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000 ~ 3000 倍	収穫前日	3 回以内	ピリベンカルブ
F:M03	ベンコゼブフロアブル	1000 倍	収穫前日	2 回以内	マンゼブ
F:M07	ベルコートフロアブル	4000 倍	収穫前日	2 回以内	イミノクタジンアルベシ ル酸塩
F:7	ネクスターフロアブル	1000 倍	収穫前日	3 回以内	イソピラザム

\*農薬の作用機構分類、同じ番号は同一系統であることを示す。

表4 ミニトマトにおける有効成分ごとの総使用回数（令和元年6月末現在の農薬登録内容）

有効成分名	総使用回数
アゾキシストロピン	2 回以内
イソピラザム	3 回以内
イミノクタジンアルベシル酸塩	2 回以内
ジエトフェンカルブ	3 回以内
炭酸水素カリウム	-
チオファネートメチル	6 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
トリフルミゾール	5 回以内
ピリベンカルブ	3 回以内
ペンチオピラド	3 回以内
ボスカリド	3 回以内
マンゼブ	2 回以内
メパニピリム	4 回以内
TPN	2 回以内